

令和3年4月

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

田口 茂（北海道大学大学院文学研究院 教授／人間知・脳・AI 研究教育センター センター長）

2. 課題名

人工主体の創出に伴う倫理的諸問題を分析・討議するプラットフォームの構築に向けた企画調査

3. 実施期間

令和2（2020）年9月1日 ～ 令和3（2021）年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、ロボットや人工知能、脳オルガノイドなど、近い将来何らかの高度な自律性や主体性を獲得する可能性のある「人工主体」を対象として、その ELSI を捉え、議論するためのプラットフォームの整備とともに、ELSI/RRI 人材の育成にも取り組む研究開発の道筋の具体化を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、(1)人工主体に関わる科学技術のさらなる定義・仕分けとアプローチの具体化、(2)人工主体に関する法制度面での ELSI の深掘り、(3)研究開発実施・連携体制、などの点の強化を期待した。

人工主体に関する科学的・学術的知見の調査、人工主体をめぐる倫理の哲学的基礎やアプローチの整理など、基礎的な調査・検討が着実に推進されている。また、対象技術としての AI・ロボットと脳オルガノイドの関係性や位置づけが整理され、非人間的な人工主体をめぐる倫理原則の提案を目指す研究開発構想の具体化が図られており、本企画調査の目標は一部残る課題はあるが概ね達成したと評価する。一方で、対象とする人工主体の技術開発現場との連携・共創の深化や、人工主体に関する技術的理解と倫理的検討の「間」をつなぐ、運用を含む法制度的観点での ELSI 検討の進展は、未だ準備の途上にあると思われる。理論的研究から包括的実践へとつながる研究体制の強化が期待される。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)